

未来技術社会実装事業 講習会

こどもデータ連携実証事業への取組について
延岡市

宮崎県延岡市

人口約11万人

日本のお家芸・製造業が集積

大都市から遠いからこそその良さ

⇒海・山・川の自然の豊かさ

⇒日本人の良さが残っている



延岡市とは、こんなまち

宮崎県延岡市の概要

- 所在地：宮崎県北部（九州の東海岸）
- 人口：約11万人（令和7年現在）
- 面積：約867km²（宮崎県内で2番目の広さ）
- 地勢：日向灘に面し、背後に九州山地が連なる海・山・川に囲まれた自然豊かなまち
- 気候：温暖で住みやすく、災害リスクが比較的少ない地域
- 主要産業：化学・製紙・食品などの工業を中心に、農林水産業も盛ん。
→**旭化成**創業地、**ノーベル化学賞**・多くの**世界一**を製造するまち
- 近年は企業誘致やワーケーションの推進など、地方創生にも注力。



延岡市の3つの特徴

- 延岡は県北の中核都市として、周辺市町村の医療・教育・産業を支える拠点。
- 一方で、人口減少・少子高齢化・地域格差などの課題も顕著に。
- 行政サービスの効率化や、こども・福祉・教育などの分野横断的な支援が求められている。

事業に取り組んだ背景

- ▶ こどもの貧困対策推進計画の策定中
- ▶ プッシュ型支援が有効ではないか
- ▶ すべての子育て家庭を支援するには、お金がない
- ▶ 対象者を絞り込めないか

事業に取り組んだ背景

類型	現状	備考
虐待	相談件数 204件（実人数 107人）	R3年度
不登校	① 小学生 44人 ② 中学生 130人	R3年度（病気等を除いて30日以上欠席した児童生徒数）
ヤングケアラー	① 障がいや病気のある家族に代わり、買物・料理・掃除・洗濯等の家事をしている（小学生0.8%、中学生0.5%） ② 家族に代わり、幼いきょうだいの世話や見守りをしている（小学生9.7%、中学生3.8%） ③ 障がいやびょうきのあるきょうだいの世話や見守りをしている（小学生0.3%、中学生1.1%） ④ 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている（小学生3.5%、中学生1.1%） ⑤ がんや難病、精神疾患等、慢性的な病気の家族の看病をしている（小学生0.3%、中学生0.3%）	R4年度小学5年、中学2年アンケート
貧困	① 相対的貧困世帯率 17.6% ② 生活保護率 2.28%（大人含む）	① 参考値（R4年度小学5年、中学2年の保護者アンケート） ② R3年度、宮崎県保護率 1.64%
産後うつ	エジンバラ産後うつ病質問票 9点以上 ① 産後2週間 8.8% ② 産後1ヶ月 6.0%	R3年度
発達障がい	児童発達支援事業 実利用者 124人	R3年度市内及び近隣自治体の児童発達支援事業所の利用者数

■民生委員・児童委員

- 1位 **そもそも貧困状態かどうかの判別ができない**
- 2位 保護者との接触・信頼関係づくりが難しい

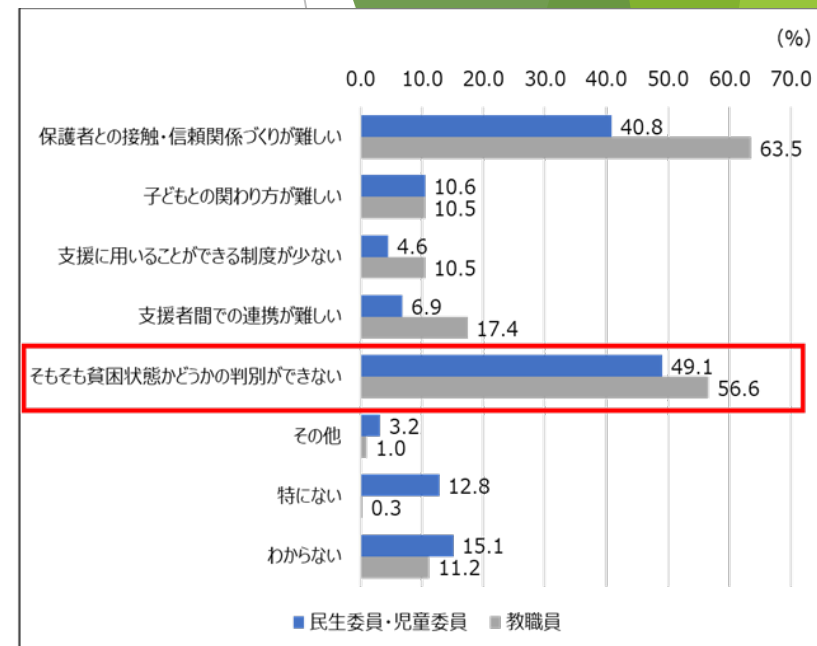
■教職員

- 1位 保護者との接触・信頼関係づくりが難しい
- 2位 **そもそも貧困状態かどうかの判別ができない**



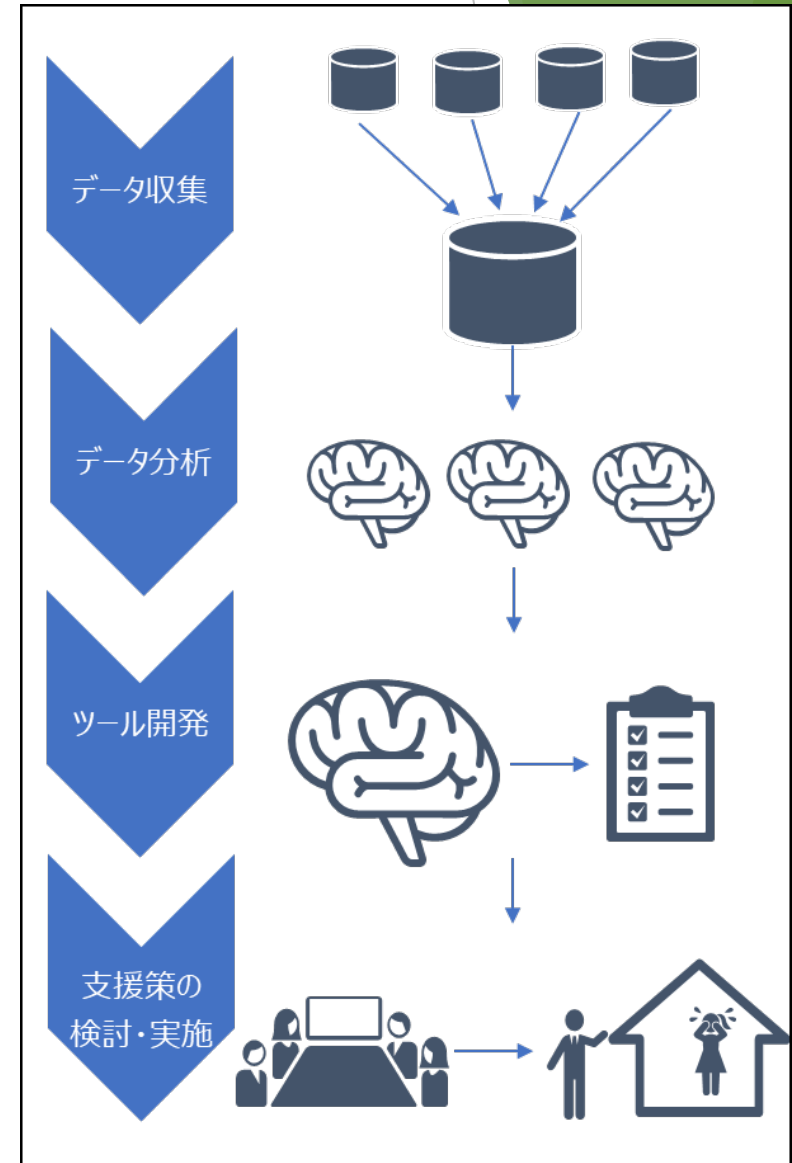
貧困状態の判別の困難性 =

貧困を始め、様々な潜在的リスクが見落とされている可能性が高い！



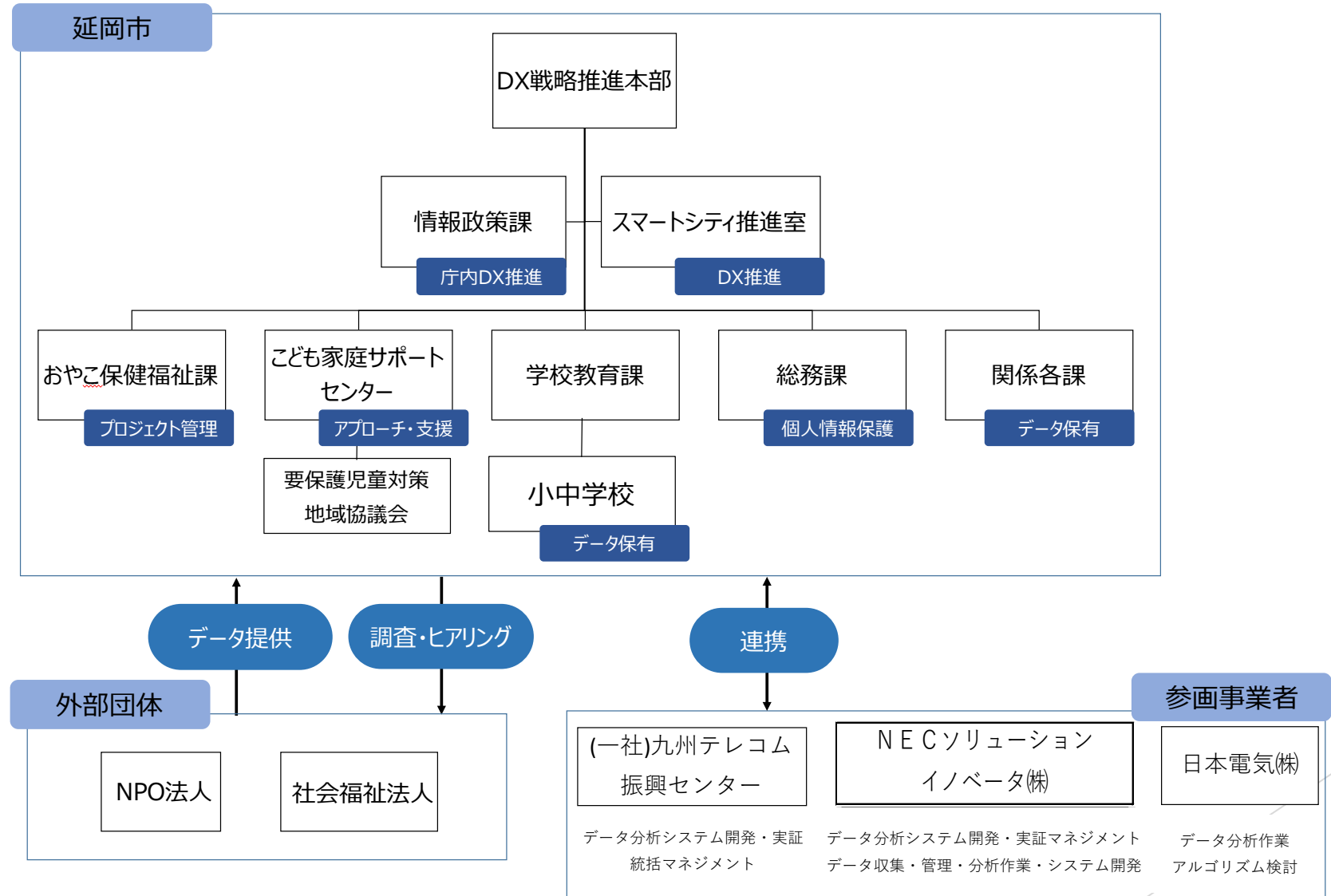
A I を活用したきっかけ

- ▶ 困っている子どもたちを見つけたい。
- ▶ でも、どうすればいいの？
- ▶ そういえば、最近、DXってよく聞く
- ▶ 市役所にある情報を集めたらどうにかならない？
- ▶ でも、どんな情報を集めたらいい？
- ▶ AI ってすごいんじゃない？



現在の取組について

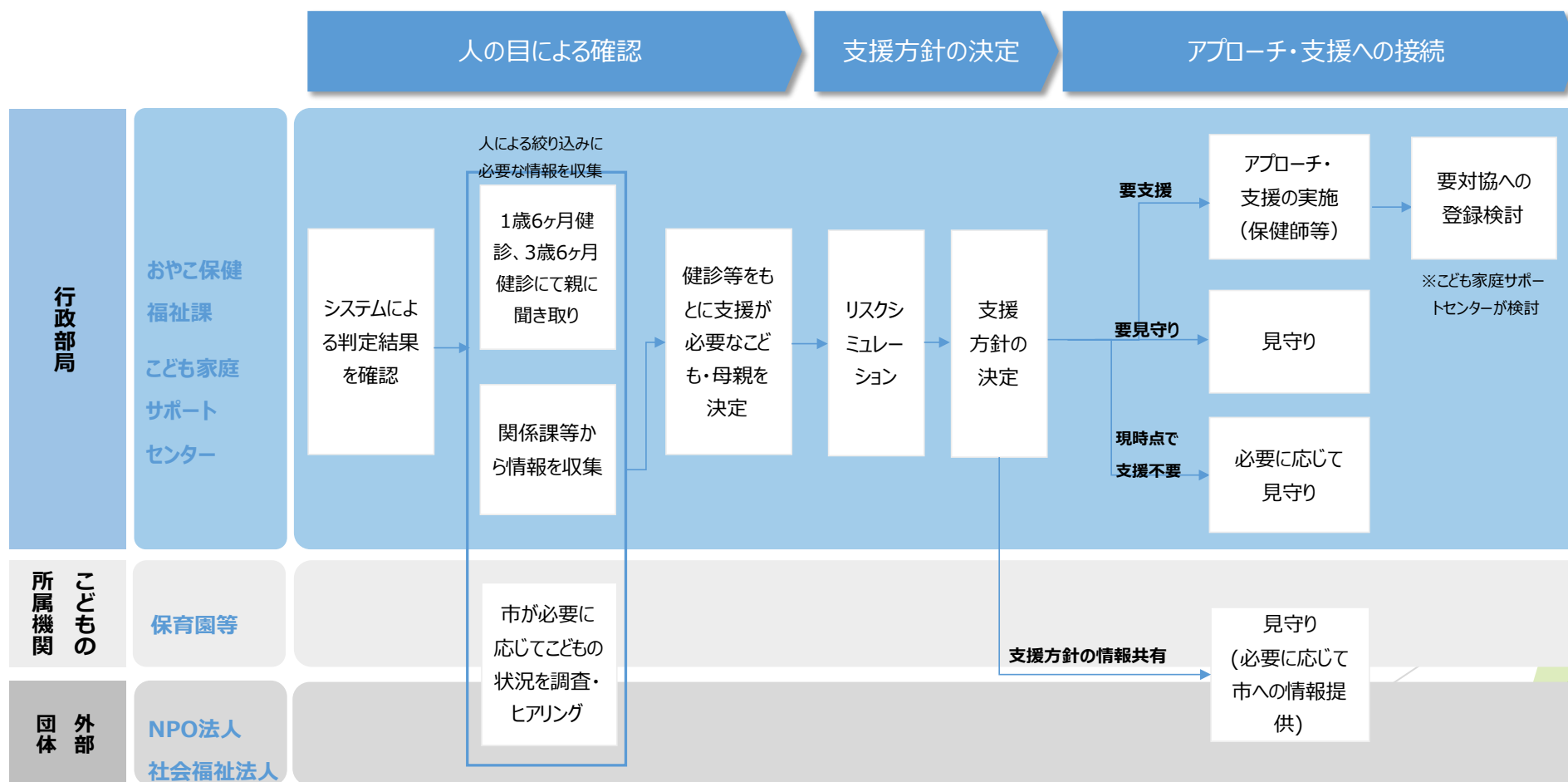
実施体制 D X 戦略推進本部をトップとし、事業全体のプロジェクト管理をおやこ保健福祉課が行う。



現在の取組について

人の目による確認や支援方策の検討

(1) 健診を通じた確認・支援（未就学児）



現在の取組について

人の目による確認や支援方策の検討

(2) 学校を通した確認・支援（就学児）



現在の取組について

事業に関する市民への周知（個人情報情報の活用含む）

- ▶ 初年度に、記者発表と、市のホームページへ掲載
- ▶ 市民からの問い合わせや苦情はなかった
- ▶ 議会側からも反対意見はなかった
- ▶ 新聞記者からの問い合わせはあった
いい結果を期待すると言ってもらえた
- ▶ 取り組み内容が、あまり認知されていない？
- ▶ 本格的に導入する際には、期待される効果を丁寧に説明するべき

プッシュ型支援で得られた成果

- ▶ 乳幼児

健診の機会を有効に活用

- ▶ 就学児

学校でのアセスメントにより、学校側は気づきのきっかけになる

- ▶ 家庭訪問

困りごとなどを聞く機会になり、市民の安心感につながる

- ▶ 想定外

訪問した家庭の母親は体調不良。同行していた保健師が指摘したが、受診には消極的。その後も継続訪問し、ようやく受診。感謝された。

A I による分析結果について

よかったこと

- ▶ 利用する情報（データ項目）が確定していない状況からでも、模索しながら分析することができた
- ▶ A I による分析結果では、これまであまり気にしていなかった情報も関連性が高いということがわかった
- ▶ 困難ごとの正解ではなくても、なにかで困っている家庭にはたどり着ける（当たらずとも遠からず）

A I による分析結果について

課題

- ▶ データ量が少なく、サンプル数も少ない
データ量が多い方がA I 分析に適している。工夫はできる。
正例と判定する基準が明確でないと広く正例と判定されてしまう。
- ▶ 分析結果は正しいのか？ 答え合わせはどうする？
- ▶ 現状では、ピンポイントでハイリスクの児童を抽出することは難しい（データ量や分析結果の蓄積）
- ▶ 延岡市では、参考値として活用
- ▶ 分析結果の活用は慎重に！ 確定情報ではない！
- ▶ 幅広い情報を集めようとする、情報を取得する労力も大きくなる（ネットワーク上に構築できるといい）

今後の展望と課題

- ▶ プッシュ型で支援を行うことは、予防策として有効
- ▶ 一方で、マンパワーや支援策とのバランスも忘れずに
- ▶ 幅広い分野の個人情報进行分析するためには、個人情報保護法の壁をクリアする必要あり
- ▶ A I 分析はシステム事業者が頼り
- ▶ 導入コストやランニングコストが課題になる。現在、分析手法を見直し中
- ▶ 本市では、課題はまだ残っている
- ▶ できる範囲を模索していく
- ▶ 分析結果を利用する場面を増やすことで、さらに有効活用